

Bridge Report キッツ (6498)

 堀田 康之 社長	会社名	株式会社 キッツ	 株式会社 キッツ
	証券コード	6498	
	市場	東証1部	
	業種	機械(製造業)	
	会社名	株式会社 キッツ	
	所在地	千葉県美浜区中瀬 1-10-1	
	事業内容	バルブ国内首位。特に建築設備や石油化学向けに強い。海外開拓に積極姿勢。伸銅品も国内上位	
決算月	3月		
HP	http://www.kitz.co.jp/		

- 株式情報 -

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
387円	109,223,895株	42,270百万円	5.8%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
7.50円	1.9%	29.29円	13.2倍	480.88円	0.8倍

*株価は8/9終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPSは前期末の実績。

- 連結業績推移 -

(単位:百万円、円)

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	配当
2008年3月(実)	149,274	11,615	10,525	6,290	54.52	15.00
2009年3月(実)	127,095	7,188	6,475	3,396	30.02	9.00
2010年3月(実)	96,592	6,976	6,248	3,079	27.23	7.00
2011年3月(実)	106,059	6,341	5,929	3,063	27.36	7.00
2012年3月(予)	112,000	6,600	6,000	3,200	29.29	7.50

*予想は会社予想。

キッツの2012年3月期第1四半期決算について、ブリッジレポートにてご報告致します。

1. 会社概要
2. 2012年3月期第1四半期決算
3. 2012年3月期業績予想
4. 今後の注目点

今回のポイント

- ・12/3期1Q(4-6月)は前年同期比13.1%の増収、同36.1%の経常増益。主力のバルブ事業の売上が国内外で伸びた他、伸銅品事業も黄銅棒市場の需要増と銅相場高騰に伴う製品価格の上昇で売上が増加した。
- ・上期は前年同期比9.1%の増収、同8.1%の経常増益を見込んでおり、進捗率は、売上高50.2%、経常利益50.0%と順調。通期予想は前期比5.6%の増収、同1.2%の経常増益。
- ・通常であれば、同社は売上・利益共に下期の方がボリュームが大きく、しかも今下期は国内プラント関係で実需的な震災復興需要が期待できそう。ただ、「80円を割り込んだ急激な円高で、下期の事業環境に若干不透明感が出てきた」として会社側は慎重な姿勢を崩していない。

1. 会社概要

バルブを中心とした流体制御機器・装置の総合メーカー。バルブは、「水道メータ周り」、「ガスメータ周り」、「給湯器」等によく目にするが、家庭だけでなく、あらゆる産業設備に使われており、同社は素材からの一貫生産を基本に、青銅、鋳鉄、ダクタイル、ステンレス鋼等を素材に数万種をラインナップしている。また、バルブの部材として使用される伸銅品の外販を行っている他、フィットネス事業やホテル事業等も手掛けている。東洋バルブ(株)、(株)清水合金製作所など連結子会社30社と共にグループを形成しており、海外売上高比率は11/3月期現在で22.6%。バルブでは国内トップ。伸銅品では国内2位のポジションにある。

<事業セグメントの概要>

事業は、バルブ事業、伸銅品事業、及びその他に分かれ、11/3期の売上構成比は、それぞれ72%、19%、9%。

バルブ事業

キッツグループのコア事業であり、上下水道・給湯・ガス・空調等のライフラインや石油・化学・紙パ・半導体等の産業分野において、流体制御機器として重要な役割を担うバルブや継手を中心に、製造・販売している。

伸銅品事業

伸銅品とは、銅に亜鉛を加えた「黄銅」、すず及びりんを加えた「りん青銅」、ニッケル及び亜鉛を加えた「洋白」等の銅合金を、溶解、鋳造、圧延、引抜き、鍛造等の熱間または冷間の塑性加工によって、板、条、管、棒、線等の形状に加工した製品の総称。キッツグループの伸銅品事業は、黄銅製の材料を用いた「黄銅棒」を生産販売している。この黄銅棒は、バルブの部材を初め、水栓金具、ガス機器、家電などの部材として使用されている。

その他

総合スポーツクラブの経営(フィットネス事業)、ホテル・レストラン経営(ホテル事業)、及びガラス工芸品の販売を行っている。

各種バルブ



水道設備用バルブ



半導体製造装置用配管部材 工業用各種フィルター



(同社資料より)

2. 2012年3月期第1四半期決算

(1) 第1四半期(4-6月)連結業績

(単位:百万円)

	11/3期 1Q(4-6月)	構成比	12/3期 1Q(4-6月)	構成比	前年同期比
売上高	24,830	100.0%	28,088	100.0%	+13.1%
売上総利益	5,643	22.7%	6,232	22.2%	+10.4%
販管費	4,556	18.3%	4,728	16.8%	+3.8%
営業利益	1,086	4.4%	1,504	5.4%	+38.4%
経常利益	1,028	4.1%	1,400	5.0%	+36.1%
四半期純利益	299	1.2%	655	2.3%	+118.9%

%単位の数値は(株)インベストメントブリッジが算出したもの。端数処理の違いから会社発表の数値と異なる場合があります(以下同じ)。

前年同期比 13.1%の増収、同 36.1%の経常増益

売上高は前年同期比 13.1%増の 280.8 億円。主力のバルブ事業の売上が国内外で伸びた他、伸銅品事業も黄銅棒市場の需要増と銅相場高騰に伴う製品価格の上昇で売上が増加した。利益面では、材料費の上昇や為替が円高で推移した事等で売上総利益率が 22.2%と 0.5 ポイント低下する中、売上の増加に伴う変動費の増加や売価政策等で販管費も増加したものの、増収効果で吸収して同 38.4%の営業増益。資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額(3.9 億円)の計上が無くなり特別損失が減少(当期は震災による損失 11 百万円など 28 百万円の計上にとどまった)したため、四半期純利益は 6.5 億円と同 118.9%増加した。

尚、為替レートは、1 ドル = 82.32 円(前年同期実績 87.32 円)、1 ユーロ = 113.73 円(同 115.06 円)。電気銅建値は 793,333 円/トン(同 738,000 円/トン)。

(2) セグメント別動向

セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

	11/3期 1Q(4-6月)	構成比	12/3期 1Q(4-6月)	構成比	前年同期比
バルブ事業	17,492	70.4%	20,165	71.8%	+15.3%
伸銅品事業	4,957	20.0%	5,787	20.6%	+16.7%
その他	2,380	9.6%	2,135	7.6%	-10.3%
売上高合計	24,830	100.0%	28,088	100.0%	+13.1%
バルブ事業	1,592	89.1%	2,058	92.5%	+29.3%
伸銅品事業	172	9.6%	124	5.6%	-27.7%
その他	23	1.3%	42	1.9%	+76.5%
消去/全社	-701		-720		-
セグメント利益合計	1,086		1,504		+38.4%

セグメント利益の構成比は消去/全社の加減算前

バルブ事業

売上高は前年同期比 15.3%増の 201.6 億円、セグメント利益は同 29.3%増の 20.5 億円。このうち、国内売上は前年同期比 14%増の 140.3 億円。石油精製・石油化学市場で厳しい状況が続いたものの、東日本大震災後に仮需が発生した(7 億円程度と推定されるが、6 月には解消)建築設備及び上下水道向けが伸びた他、一般化学市場やガス市場も震災に伴う工場の復旧需要等で増加。この他、機械装置関連市場や半導体関連市場の売上も増加した。

海外売上は同 18.3%増の 61.2 億円。中国や東南アジア向けの好調でアジア向けの売上が同 12.1%増加した他、北米も前期後半からの受注増を反映し同 47.8%増加。一方、市場の低迷が続いたヨーロッパ等が同 3.7%減少した。利益面では、市況の低迷や原材料高の影響を受けものの、増収(数量増)効果と原価低減努力により営業利益率が改善。製品別では、主力の青黄銅バルブやステンレスバルブが増益となり、半導体製造装置向けの利益は倍増(同 101.5%増)。前期苦戦した鋳鋼バルブも中国での稼働率向上で増益となった。

伸銅品事業

売上高は前年同期比 16.7%増の 57.8 億円、セグメント利益は同 27.7%減の 1.2 億円。黄銅棒市場の需要増と銅相場高騰に伴う製品価格の上昇で売上が増加したものの、増産対応による労務費の増加や原価差益の減少で利益が減少した。

その他

売上高は前年同期比 10.3%減の 21.3 億円、セグメント利益は同 76.5%増の 42 百万円。フィットネス事業において、東日本大震災で水戸店、仙台店が被災し一時休店(6月に再開)した他、ホテル事業も団体客のキャンセルが発生し売上が減少したが、フィットネス事業で原価低減(節電及び販促費の削減等)が進み利益率が改善した。

四半期セグメント別売上高・利益の推移

(単位:百万円)

	売上高					営業利益				
	11/3-1Q	2Q	3Q	4Q	12/3-1Q	11/3-1Q	2Q	3Q	4Q	12/3-1Q
バルブ事業	17,492	18,914	19,335	20,356	20,165	1,592	1,995	2,178	2,377	2,058
伸銅品事業	4,957	4,775	4,797	5,700	5,787	172	119	172	169	124
その他	2,380	2,824	2,436	2,088	2,135	23	254	91	-55	42
消去/全社	-	-	-	-	-	-701	-659	-700	-687	-720
合計	24,830	26,513	26,568	28,145	28,088	1,086	1,709	1,741	1,803	1,504

(3) 会社別動向

同社個別の業績は、国内外でバルブの売上が伸び売上高が 134.8 億円と前期比 13.1%増加。原材料高等の影響を吸収して経常利益が 11.6 億円と同 31.4%増加した。バルブ事業の主要子会社では、東日本大震災後に仮需が発生した事もあり、キッツや建築用バルブを手掛ける東洋バルブ、上下水道関連の清水合金製作所の売上が増加。海外は、原材料高でステンレスバルブを手掛ける台湾北澤が減益となったものの、前期に苦戦したキッツ閥門(中国:石油精製・石油化学向けの鋳鋼バルブ)や PERRIN(ドイツ)の損益が大幅に改善。この他、半導体製造装置向けを手掛けるキッツエスシーティーは売上が伸び利益が倍増した。

一方、伸銅品事業を手掛けるキッツメタルワークスは需要増と銅相場高騰に伴う製品価格の上昇で売上が増加したものの、増産対応による労務費の増加や原価差益の減少で営業減益。この他では、原価低減でキッツウェルネスの利益が増加する一方、震災の影響でホテル紅やの損失が増加した。

(4) 財政状態及びキャッシュ・フロー(CF)

財政状態

(単位:百万円)

	11年3月	11年6月		11年3月	11年6月
現預金	13,108	9,127	仕入債務	5,799	5,902
売上債権	22,253	24,164	短期有利子負債	14,483	14,153
たな卸資産	14,279	15,741	流動負債	26,521	26,125
流動資産	52,036	51,622	長期有利子負債	15,680	15,055
有形固定資産	35,027	34,973	固定負債	20,184	19,532
無形固定資産	2,172	2,131	純資産	53,433	53,896
投資その他	10,901	10,826	負債・純資産合計	100,138	99,553
固定資産	48,101	47,930	有利子負債合計	30,165	29,210

第1四半期末の総資産は前期末比 5.8 億円減の 995.5 億円。受注・売上の増加で売上債権、たな卸資産、及び仕入債務が増加したものの、法人税等の支払いや有利子負債の削減を進めた事でバランスシート全体ではスリム化が進んだ。CFの面では、受注・売上の増加による運転資金の増加や税金費用の増加(5.2 億円 11.7 億円)で営業CFがマイナスとなる中、設備投資や有利子負債の返済に伴い投資CF及び財務CFもマイナスとなり、現金及び現金同等物の第1四半期末残高は 86.7 億円と前期末比 40.2 億円減少した。

キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	11/3期 1Q(4-6月)	12/3期 1Q(4-6月)	前年同期比	
営業キャッシュ・フロー	849	-1,892	-2,741	-
投資キャッシュ・フロー	-823	-678	+145	-
フリー・キャッシュ・フロー	25	-2,570	-2,596	-
財務キャッシュ・フロー	-1,846	-1,499	+346	-
現金及び現金同等物期末残高	7,919	8,678	+758	+9.6%

3. 2012年3月期業績予想

上期及び通期の業績予想に変更は無く、通期で前期比5.6%の増収、同1.2%の経常増益予想

通期売上高は前期比5.6%増の1,120億円を予想。海外を中心にバルブ事業の売上が増加する他、黄銅棒の販売拡大や銅相場の市況を反映した製品価格上昇で伸銅品事業の売上も伸びる見込み。一方、利益面では、原価低減や数量増効果を見込むものの、原材料高やバルブの製品価格低下に加え、人員増等による販管費の増加を織り込んだ。金融収益の減少等で営業外損益が悪化するものの、特別損失の減少で当期純利益は32億円と同4.5%の増加する見込み。配当は1株当たり0.5円増配の年7.5円を予定。

前提は、為替レートが、1ドル=81.00円(前期実績87.32円)、1ユーロ=113.00円(同115.06円)。電気銅建値は820,000円/トン(同738,000円/トン)。

尚、上期業績は前年同期比9.1%の増収、同8.1%の経常増益を見込んでおり、進捗率は、売上高50.2%(前年同期の実績ベースの進捗率は48.4%)、経常利益50.0%(同39.7%)と順調。

上期連結業績

(単位:百万円)

	11/3期 上期 実績	構成比	12/3期 上期 予想	構成比	前年同期比
売上高	51,344	100.0%	56,000	100.0%	+9.1%
売上総利益	12,025	23.4%	12,950	23.1%	+7.7%
販管費	9,228	18.0%	9,850	17.6%	+6.7%
営業利益	2,796	5.4%	3,100	5.5%	+10.9%
経常利益	2,589	5.0%	2,800	5.0%	+8.1%
四半期純利益	1,313	2.6%	1,500	2.7%	+14.2%

通期連結業績

(単位:百万円)

	11/3期 実績	構成比	12/3期 予想	構成比	前期比
売上高	106,059	100.0%	112,000	100.0%	+5.6%
売上総利益	24,624	23.2%	25,900	23.1%	+5.2%
販管費	18,283	17.2%	19,300	17.2%	+5.6%
営業利益	6,341	6.0%	6,600	5.9%	+4.1%
経常利益	5,929	5.6%	6,000	5.4%	+1.2%
当期純利益	3,063	2.9%	3,200	2.9%	+4.5%

為替換算レート/電気銅建値

	10/3期(平均) 実績	11/3期(平均) 実績	12/3期 予想
ドル:対円	93.71	87.32	81.00
ユーロ:対円	130.51	115.06	113.00
電気銅建値:円/トン	609,000	738,000	820,000

セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

	11/3 期 実績	構成比	12/3 期 予想	構成比	前期比
バルブ事業	76,098	71.7%	78,800	70.4%	+3.6%
伸銅品事業	20,230	19.1%	24,200	21.6%	+19.6%
その他	9,729	9.2%	9,000	8.0%	-7.5%
売上高合計	106,059	100.0%	112,000	100.0%	+5.6%
バルブ事業	8,143	89.6%	8,875	93.4%	+9.0%
伸銅品事業	632	7.0%	600	6.3%	-5.1%
その他	314	3.5%	25	0.3%	-92.0%
消去	-2,749	-	-2,900	-	-
営業利益合計	6,341	-	6,600	-	+4.1%

利益の構成比は消去・全社調整前。

4. 今後の注目点

足下、震災後の仮需的な動きが一巡し、調整局面を迎えているようだ。また、半導体関連にも減速感があると言う。ただ、通常であれば、同社の業績は下期偏重で、売上・利益共に下期の方がボリュームが大きく、しかも今下期は国内プラント関係で実需的な震災復興需要が期待できそうだ。しかし、「80円を割り込んだ急激な円高で、下期の事業環境に若干不透明感が出てきた」として会社側は慎重な姿勢を崩していない。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2011 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

ブリッジレポート(キッツ:6498)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、www.bridge-salon.jp/ でご覧になれます。